

上・下水道・環境の総合誌

# 水道公論

THE SUIDO KORON

Vol.50  
No.9  
2014  
9



60年の歴史踏まえ次代へ邁進  
塩化ビニル管・継手協会会長  
根岸 修史氏

■ 特別企画：日水協とAWWAとの協会間連携②

～ACE14を振り返って～

尾崎勝日本水道協会理事長インタビュー

■ 特別座談会：～無限・具現・実現～ 若手職員の思う下水道の将来像

■ 連載企画：世界の水事情－第二章－世界の水と衛生の現状と課題

日本水道新聞で7月7日号から連載を開始している「悠久の河 周藤彌兵衛翁物語」(村尾靖子作)の舞台となった松江市八雲町日吉の吉親水公園で8月1日、主人公・周藤彌兵衛翁銅像の除幕式が盛大に挙行された。今年4月2日に制定された水循環基本法により法制化された初の「水の日」というタイミングで挙行され、彌兵衛翁の不屈の志とその生き方、勇気と愛、平和の大切さを伝える格好の日となった。こうした流れを生かして、世界中にあるであろう水にまつわる伝説の英雄を多く探し出して、その偉業を顕彰する一大運動になれば「水の日」法制化の意義もいっそう高まり、国民へ治水の大切さも周知できる。

## 経済時評

### 周藤彌兵衛翁の除幕式

矢野会長は「銅像の建立は長年  
る洪水から村を守るため、56歳から97歳までの42年間、不撓不屈の志をもって霊山剣山の硬い安山岩を開削し、切通しを完成させて102歳で大往生した伝説の英雄。今でも意宇川の硬い岩場にはノミの跡が残り、時空を超えて勇気と愛、平和の大切さを多くの人々に伝える水の聖地となっている。」

日吉親水公園で行われた式典は、周藤彌兵衛翁顕彰会(矢野秀行会長)と銅像を寄贈した小松電機産業(小松昭夫社長)・一般財団法人人間自然科学研究所の共催で行われた。来賓には細田敬二島根県教育庁教育次長、お隣の鳥取県からは浜田和幸参議院議員が駆けつけたほか、篠原栄松江市議会副議長、清水伸松江市教育長らが招かれて偉業を称えて祝辞を述べ、晴れの舞台に華を添えた。

彌兵衛翁像(高さ2・65m、幅2・8m、奥行1・7m、重さ1・3t)の除幕式には、来賓はじめ地元びよし保育園の園児ら6名が参加。純白の布に覆われた銅像の幕につながる紅白色のロープを引くと、長髪を振り乱して一身

にわたる願いであり、必ず実現したいと思っていた。訪れた人々に翁の偉業をさらに知ってもらいたい」と述べてさらなる顕彰活動の推進と支援を求めている。作者の村尾さんは「周藤翁は村のため、自分があずかっている民のためということを全面に打ち出して、42年間必死に岩を切り続けられた。私は人として非常に心打たれまし

た。彌兵衛翁はもちろん、これを支えた奥さんや子供について、女の立場としてどういう方だろうかと想像が広がり、家族の絆とか、指導者としてどうしてもやりとげなければならぬことを中心に書きました。最近の世界の指導者でもそうですが、トップが交代するたびに方針が変わったりして、一本筋の通った人が昔より大変少なくなってきた気がしている」と翁の生き様を語っている。小説では周藤家3代にわたる庄屋の生き様が登場人物を通して語られている。とても読み応えがある作品だ。

銅像の制作地は中国山東省の棗莊市。島根、鳥取、広島、岡山出身者で編成された松江六十三連隊を含む日本軍と米・英の援助を受けた中国軍が戦った「台児荘大戦」(1938年)で双方に甚大な被害が出た地でもある。銅像を寄贈した小松昭夫氏は人間自然科学研究所の理事長を務めており、八雲から北東アジアそして世界の恒久平和を生み出すきっかけとなるよう彌兵衛翁顕彰会の活動を支援してきた平和の事業家でもある。